

視察結果の概要

1. 高校WG委員による開建高等学校視察（令和6年7月実施）

●学校概要

- ・開校年：昭和38年4月、洛陽・伏見両高校の普通科生徒を受け入れる形で、普通科単独の塔南高校が開校。
令和5年4月、塔南高校の再編により開建高校が開校。
- ・生徒数：1学年240名程度
- ・学科等：ルミノベーション科（地域社会に関する学科）

●学校の特色（学校からの説明概要）

- ・「協創者」の育成を目指し、探究的な学びを重視したカリキュラムの設定や、多様な学びの環境を創り出す「ラーニングポッド（L-pod）」、チーム担任制の導入など、様々な取組を行っている。
- ・「総合的な探究の時間（協創）」を中核とした学校に閉じない学びを実践しており、1～3年生までで5単位設置している。また、学校設定科目（ルミノベーション）を1年生で2単位履修し、探究活動の基礎となる「コアスキル（汎用性の高い方略）」の習得を目指している。このコアスキルを基に、学校独自で「コアスキルカード」を作成し、学び視点の多角化を図ることやチームビルドの参照点とするなど、生徒の探究活動の一助としている。
- ・ホームルーム教室として、普通教室4つ分の大きさと80人の生徒と複数の教員がともに学ぶL-podを設置している。L-podは可動式のホワイトボード壁を使用しており、授業の目的や手法に応じて教室の形を変えることが可能となっている。

●授業（協創Ⅰ・協創Ⅱ）等見学内容

- ・教科のパースペクティブ（見方・考え方）を使って調べた内容について、別のパースペクティブを学習した生徒とグループになり、課題解決をする。（協創Ⅰ）
- ・探究テーマと計画立案の段階（計4回の授業）。教室を「調べる」「生み出す」「改善する」の部屋に分け、生徒が選択して移動し、自身の研究テーマや計画を深め、実行に結び付ける。（協創Ⅱ）

●教員との懇談における主な意見等

（総合的な探究の時間の授業について）

- ・中学校の総合的な学習の時間と同じく探究は調べ学習と思っていたが、高校の総合的な探究の時間では好きなことをやっていくうちに、自身の興味関心などの内なる自覚に気づく機会になっていると言っている生徒もいる。
- ・開建高校で育む資質能力の一つとして「貢献志」があるため、探究活動の中で好きなことに取り組みながらも、その活動が結果として人の役に立つことがあるのかという視点も意識させたい。
- ・いわゆる探究サイクル（仮説設定→情報収集→分析→まとめ・表現）を回すだけが探究の型ではない。「自分の仮説を検証したが想定した成果が出なかった」、「検証する中で異なる仮説が生まれた」など、生徒・教員間で自分なりの探究活動を展開することを共有しながら進めている。
- ・（生徒自身が）操作できる場面を多く設定することで、生徒が主体的に探究活動を進めていく。面白いことをやっている人を見て触発されて取り組む雰囲気があるので、触発の仕方がポイントだと感じる。

（組織体制について）

- ・地域協働コーディネーターは、積極的に企業や大学等の連携先を開拓しており、50を超える連携先がある未来デザインプログラムの連絡調整や総合的な探究の時間（協創ⅠⅡ）において、生徒からの相談を受け付けたり、授業にも参画いただくなど、本校の外部連携のコア的な役割を担っており、欠かせない存在である。
- ・チーム担任制のクラス編成の下、主要教科では教員3人で生徒80人の指導体制としている。経験のある教員と若手教員がチームとなることで、OJTとなり、若手の発想やベテランからの助言がお互いを刺激している。新しい教育活動を創り上げている意識があり、やりがいを感じているため、多くの教員からこの学校に赴任して良かったと聞いている。

（ラーニングポッドについて）

- ・施設設備としてかなり使い勝手が良いが、L-podを有効活用するには教員側のチームワークを含めた授業設計が重要。教員側にある程度の経験や想像力等が必要となる。

2. 高校WG委員による清明高等学校視察（令和6年7月実施）

●学校概要

- ・開校年：平成27年4月
- ・生徒数：1学年120名程度
- ・学科等：昼間定時制（普通科）

●学校の特色（学校からの説明概要）

- ・DE&Iの考え方の下、①学ぶ楽しさを提供する、②生徒に自信を返す、③環境を調整するの3点を大事にしている。
- ・長期欠席経験者が多数在籍するが、「心理的安全性」により、多くの生徒が順調に学校生活を送ることができている。「心理的安全性」は以下の3つのレイヤーで構成される。

全体アプローチ：自分のペースに合わせてフレキシブルに学べる清明高校の「教育システム」

個別アプローチ：合理的配慮や通級指導

オールマイノリティ：標準に合わせるという圧力や周囲に対する劣等感を感じる事が少ない風土

- ・タブレットを活用した自由進度学習（各教科）や、AI型学習アプリを用いた自学自習による学び直し（フレックススタディ）を実施しており、教員はコーチやトレーナー的にサポートを行っている。
- ・小型インスタントハウスを取り入れたカームダウンスペースなどのチルスペースの設置や、教室レイアウトの変更など校舎のいたるところで設備的な工夫を施しており、多様な生徒が安心して学ぶことができる環境作りを行っている。

●授業等見学内容

- ・自由進度学習の授業や探究学習、職員室、図書室、チルスペース、自習スペースなどを見学。
- ・総合的な探究の時間（フレスタ）では、生徒が問いを立てたテーマの探究についてまとめを発表。生徒は発表形式を選んで参加することができ、実際に見学したグループは音声生成AIを用いて発表していた。（発表が苦手な生徒でも発表できるような工夫がされている。）
- ・様々な種類の椅子がある教室では、学校設定科目の一つである「発達と心理」の授業で、各々の生徒が自由なスタイル（グループか個人か、立つか座るかなど）で発達段階を踏まえた子供のおもちゃを作成していた。この自由なスタイルの教室について、教員より「教員の立場からは、生徒が本当に集中できるか不安だったが、アンケートを取ると、生徒の8割が普通の教室より集中できたと回答しており、教員と生徒の捉えに違いがあることが興味深かった」旨の発言があった。

●教員、生徒との懇談における主な意見等

（授業について）

- ・（タブレットを用いることで）授業についていきやすく、理解もしやすくなった。（生徒意見）
- ・清明高校では、フレキシブルに来て学習できる。（生徒意見）
- ・中学校のときは一斉授業であり同じペースで学んでいたが、自由進度学習のように自分のペースもありつつ、個人が学び方を変えることができるとよい。先生が教えてくれることだけでなく、興味のあることをじっくり深掘りして学べるように自分で調べるなどといったことが、授業の中でできるようになったらより良い。（生徒意見）
- ・1年生で習熟度別に授業をしているが、他学年でも習熟度別にできたらいい。（生徒意見）
- ・創造力を鍛えられるような学びや、答えがいくつもあるような学びをしたい。一つの答えだけでなく、いくつもの答えを正解として受け入れてくれるような雰囲気づくりができれば嬉しい。（生徒意見）

（学校設備について）

- ・ハード面については、生徒からの希望を取り入れており、生徒の要望もあって色々な椅子を選べる教室が実現した。（教員意見）
- ・チルスペース、チルアイテムについても複数の生徒が運営や企画に携わっている。（教員意見）